

# 電波政策懇談会 電波利用システム将来像検討部会（第7回会合） 議事要旨

## 1 日時

平成21年2月24日（火） 17時00分－18時30分

## 2 場所

総務省 11階 第3特別会議室

## 3 出席者（敬称略）

（主査：敬称略）

森川博之

（構成員：50音順、敬称略）

相澤学、石原弘、稲村賢治、後川彰久、大西完司、岡田一泰、岡本芳郎、門脇直人、郡山龍、庄木裕樹、正源和義、鈴木教洋、高田宜史、竹内嘉彦、田中謙治、中山正千代、広池彰、福田英輔、藤原守男、古川憲志、堀部晃二郎、宮崎正夫、三輪真、諸橋知雄、矢野陽一、湧口清隆、横澤誠

（総務省）

渡辺電波政策課長、佐々木基幹通信課長、野水電波政策課企画官、坂中移動通信課企画官、瀬戸移動通信課推進官、新田電波政策課企画官、村上電波政策課統括補佐

## 4 議事

1. 開会

2. 議題

(1) 電波利用システムの将来像について

3. その他

4. 閉会

## 5 議事概要

- ・資料 7-1「電波利用の更なる多様化により実現される将来像に関する調査票（想定される将来の利用シーン、サービス像）」に基づき、アドホックグループ主任より説明があった。
- ・資料 7-2「新たな電波利用システムに必要となる主な要素技術」に基づき、アドホックグループ主任より説明があった。
- ・資料 7-3「電波利用の更なる多様化により実現される将来像に関する調査票 海外・国内動向概要」に基づき、横澤構成員より説明があった。
- ・資料 7-4「サービスイメージ・要素技術の整理」に基づき、事務局より説明を行った。
- ・資料 7-5「新たな電波利用サービスが創出する経済的波及効果の検討について」に基づき、事務局より説明を行った。
- ・机上配布資料に基づき、「ICTビジョン懇談会」緊急提言について、事務局より説明を行った。
- ・今後の議論の進め方について事務局より説明を行った。

## 6 議事概要

各議題について以下のような意見及び質疑応答があった。

(1) 資料7-1～7-4について

○資料7-1について、シングルモードの無線対応のソフトウェア無線というのは、何に必要なのか？ソフトウェアアップデートみたいな感じで使うことになるのか。

→2010年においても、アップデートはシングルモードについては入ってくるだろうが、今まで想定されなかったような新たな使い方をされてくるのは2015年以降になるのではないかと考えられ、そういった新無線通信とでもいべき変化が起きるのは2015年頃になるだろう。

→課題はアンテナをいかに広帯域に対応するかであり、その点に時間がかかると考えられるため、ここでは2015年としている。

○研究開発の推進と周波数利用方策の、どちらが課題のメインなのか？

→懇談会の検討課題としては両方重要だが、今回の資料の中で明確化出来るのは、研究開発課題の方。

○AR（拡張現実）の様な、新しいサービスイメージがどこに入っていくのかが重要な視点なのではないか。

→資料7-4をどうまとめていくかといった中で、サービスイメージや周波数も含め、まとめていくことになるのではないか。

○資料7-1で、センシング技術のカテゴリ分けが、2010年はインフラ技術で2015年は回路技術になっているのは何か意味があるのか？

→アドホックの議論の中では、端末側もセンシングをする必要があるという話はあった。

→まずは基地局から導入されて、その後に端末に導入されていくというイメージである。

○避難誘導での経路案内や、視覚障害者への駅構内案内などの、「路一人」間とでもいべきサービスイメージも含めていただければと思う。また、単に位置が特定されるだけでなく、そこに何があるかの情報まで提供する、たとえばATMの前に立てば、ATMの前に居るということが分かるといった、「どこにいるかということがわかる」ようなサービスのイメージを含めていただければと思う。

→今回の資料は自動車に主に重点をおいた書き方になっているが、歩行者などに対する情報提供サービスなども含めていく必要があると思う。

○ITSについては、路車間から車車間と進展するというイメージなのか？

→5.8GHz帯など既存の帯域では路車間から車車間になっていくと思う。現在新たに開発されている新しい周波数帯（700MHz帯）については、車車間からスタートして路車、車車共用という形になると想定される。

(2) 資料7-5について

○市場規模予測をする場合、技術面で相互に重なっている市場や、技術そのものがもたらす市場規模と別に波及効果で出てくる市場など、いろいろな市場が考えられ、整理が難しいのではないか。また、技術の実現の時期で、経済効果は大きく変わってくるので、利用形態に合わせた周波数施策のシナリオをよく考える必要がある。

○未来予測には限界があることから、未来予測を過信しない。出来るだけ用途を特定せずに、いろいろな用途に使えるような周波数割当の方法を考えていく必要があるのではないか。

○この場で検討されているような未来予測によって出現するサービスをすべて、柔軟に取り入れられるような、周波数政策を考えていく必要があるだろう。

## 7 次回の予定

- ・ 3月10日に開催予定の懇談会にて、部会の検討状況を報告する予定。
- ・ 次回の部会開催は、3月後半でスケジュール調整中。

以上